

ウォーカブルなまちなかづくりとは

ウォーカブル (walkable)

「歩く」を意味する「walk」と「できる」の「able」を組み合わせた造語

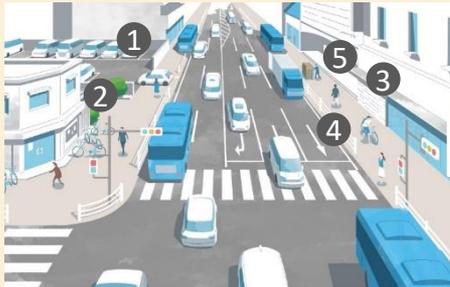
「歩きやすい」、「歩きたくなる」、「歩くのが楽しい」といった意味を持ちます。

国土交通省では、「**居心地が良く歩きたくなるまちなか**」としてウォーカブルなまちなかづくりを推進しています。

ウォーカブルなまちなかづくり 段階的な再編のイメージ

STEP 0

自動車中心の道路空間



STEP 1

いろいろ試してみる



STEP 2

日常的に使ってみる



STEP 3

ひと中心の道路空間に！



- ① 歩道空間を分断する駐車場
- ② 歩道上の放置駐輪
- ③ まちに開かれていない沿道の店舗
- ④ 歩道よりも車道が広い、自動車中心の空間
- ⑤ 通過するだけの歩行者

- ① 空地を活用した居場所作り
- ② 店先を活用した飲食物販売
- ③ キッチンカーの誘致
- ④ パークレットの整備
- ⑤ ストリートファニチャーの設置

- ① 広場化した駐車場でのイベント
- ② 街路樹の整備
- ③ 自転車レーンの設置
- ④ ストリートファニチャーの常設化
- ⑤ 車線数の減少による歩行空間の拡大

- ① 芝生が整備された、くつろげる広場
- ② 透明性の高い建築物
- ③ オーニングの設置
- ④ トランジットモール化による歩きやすい空間
- ⑤ まちに滞在する歩行者

ウォーカブルなまちなかづくり 事例

街路空間の再編が行われた例



姫路市 大手前通り



神戸市 葺合南54号線



千代田区 丸の内仲通り

社会実験などで段階的な取り組みが行われている例



神戸市 KOBEパークレット



沼津市 OPEN NUMAZU



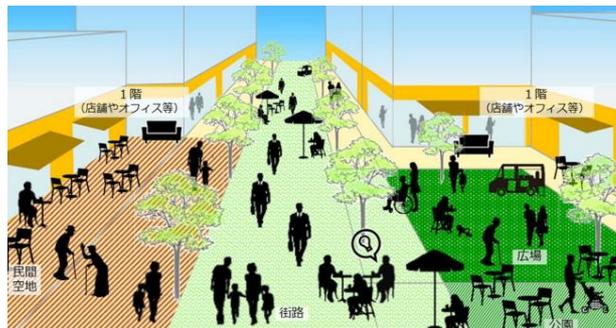
広島市 カミハチキテル

ウォーカブルなまちなかづくり 経過・動向

令和元年

「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」の提言

新たな時代のまちづくりとして、「WE DO」をキーワードに、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成によるイノベーションの創出と人中心の豊かな生活の実現を提言



- W**alkable 歩きたくなる
- E**ye Level まちに開かれた1階
- D**iversity 多様な人の多様な用途、使い方
- O**pen 開かれた空間が心地よい

出典：国土交通省ホームページ

令和2年

「まちなかウォーカブル推進事業」の創設

車中心から人中心の空間へと転換を図る、まちなかの歩いて移動できる範囲（滞在快適性等向上区域を設定）において、滞在の快適性の向上を目的として市町村や民間事業者等が実施する、**道路・公園・広場等**の整備や修復・利活用、**滞在環境の向上に資する取組を重点的・一体的に支援**し、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりを推進する事業（**国費率：1/2**）

関連する主な動き

「都市再生特別措置法」の改正

（令和2年9月施行）

市町村が、まちなかにおける交流・滞在空間の創出に向けた官民の取組を都市再生整備計画に位置付けることで、法律・予算・税制のパッケージによる支援が受けられる制度を創設

ウォーカブル推進都市の募集

（令和元年）

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりを目指す国の方針に賛同し、事業推進に取り組む自治体を指し、全国で357都市（令和5年10月末時点）が参加しています。

西宮市も令和元年からウォーカブル推進都市に参加しています。

西宮市における取り組み

令和元年12月

本庁舎周辺再整備ビジョン（素案）を中間報告

本庁舎周辺の公共施設が次々と更新の時期を迎える中で、**本庁舎周辺エリアの空間整備の方針**として2050年を目標としたビジョン策定の取り組みをスタート。

まちに開かれた公共建築物の整備とともに**道路や公園・広場等のオープンスペースを人が中心の空間に転換し、「居心地が良い」まちなかの形成**を目指しています。



出典：西宮市「本庁舎周辺再整備ビジョン（素案）」中間報告を一部修正

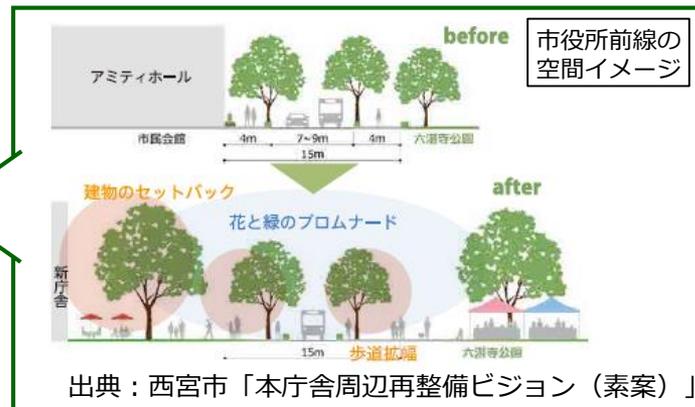
2050年に向けた将来ビジョン(コンセプト)

多世代が集う 市民の杜

～人々が集い、楽しみ、憩い、
学び、愛され親しまれるまち～

5つの基本方針

- 1.人々が集う賑わいのあるまちへ
- 2.歩いて楽しい人に優しいまちへ
- 3.市民文化を育むまちへ
- 4.災害に強くスマートなまちへ
- 5.みんなで協力して育てるまちへ



出典：西宮市「本庁舎周辺再整備ビジョン（素案）」

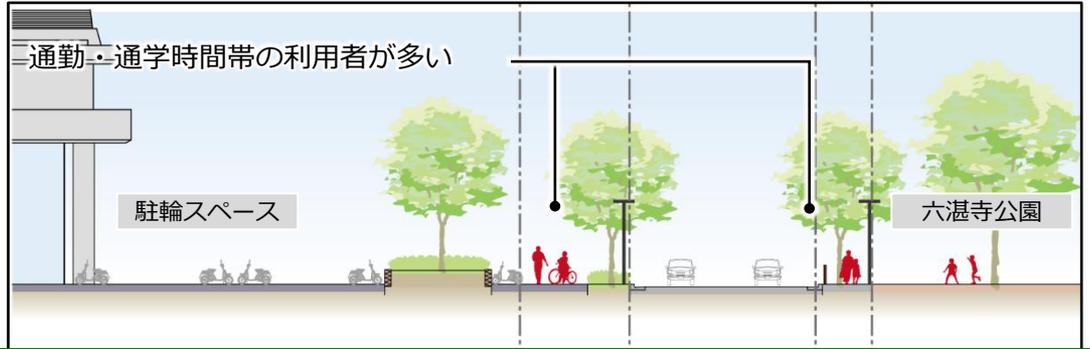
国の動向や公共施設の再編計画（本庁舎周辺再整備ビジョン等）を踏まえ、本庁舎周辺エリアにおける **ウォーカブルなまちなかづくり** を進めていきます。

実現に向けたロードマップ

例：市役所前線

現在：STEP 0

自動車・自転車が多く、
移動が中心の道路空間

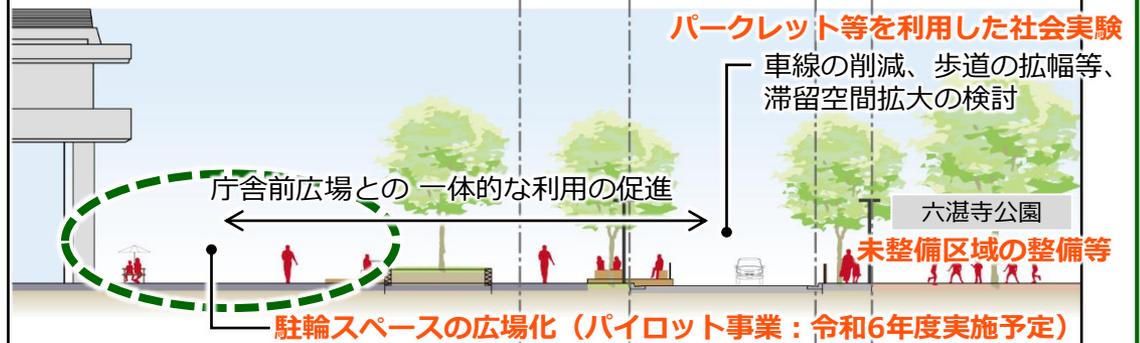


STEP 1, STEP 2

街路等を利用した試行等
↓
段階的な日常化

※ウォークブル推進事業（補助事業）及び
企業版ふるさと納税制度等を活用予定

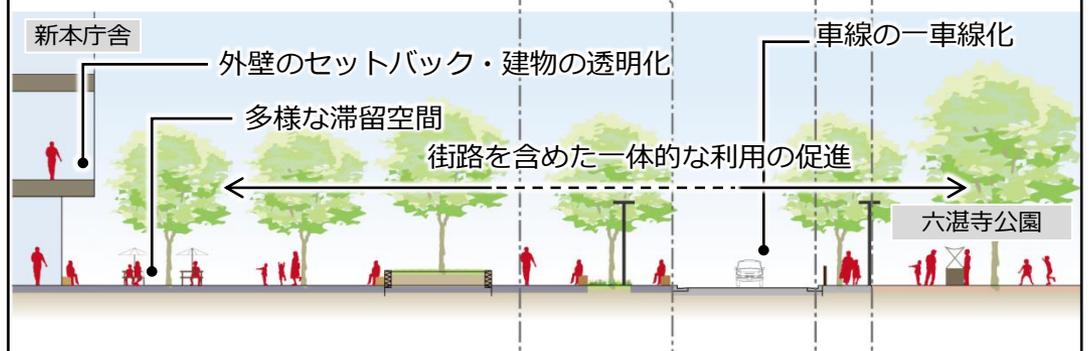
当面の取り組み内容（5次総後期）



STEP 3

人が中心となった
居心地の良い街路空間

新本庁舎建設時のイメージ

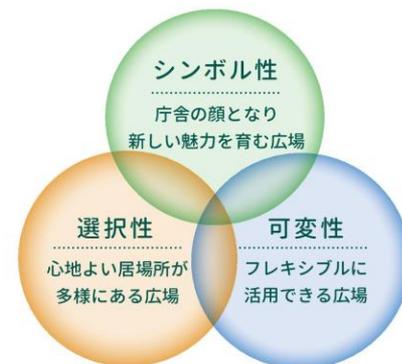


市役所本庁舎前広場計画案（令和6年度実施予定）

■コンセプト

新しい街路文化を育む Civic Square（市役所前シビックスクエア）

“ちょっと立ち寄りたくなる” “外で読書をしたくなる” “自分も参加してみたくなる”、
街を楽しむ活動の「スイッチ」になり、
緑に囲まれた空間で思い思い過ごす人々の姿が、新しい魅力となって街に変化をもたらす市民広場



シンボル性

クスノキや石積などの象徴的な景観資源を活かしながら、街に開いたアウトドアリビングとしてリ・デザイン。緑と人の姿が融合したランドスケープの形成が、新しい街の魅力を育むことを目指します。

選択性

気軽に立ち寄り休憩したり、落ち着いて読書をしたり、誰かと語らったり。目的や気分に合わせて選択できる、雰囲気異なる多様な滞留空間を創出します。

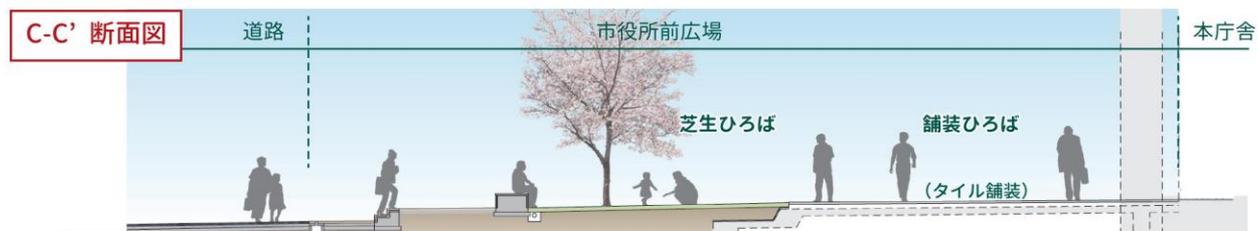
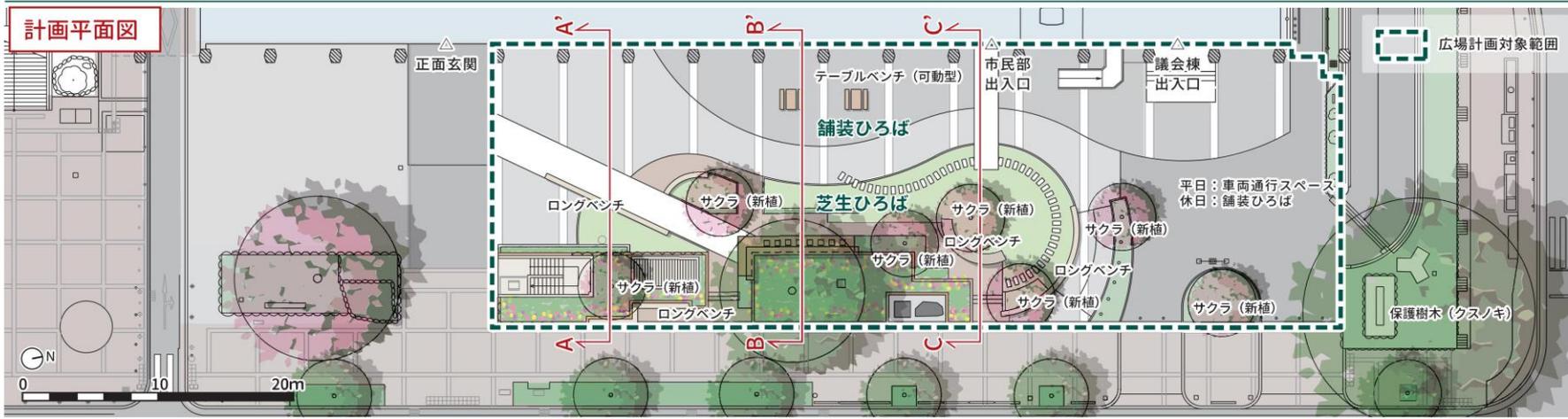
可変性

平日の駐輪や車両通行などの交通空間は、休日には広場と一体的なにぎわい空間に。利用や求められる機能の特性をふまえ、柔軟に活用できる広場とします。

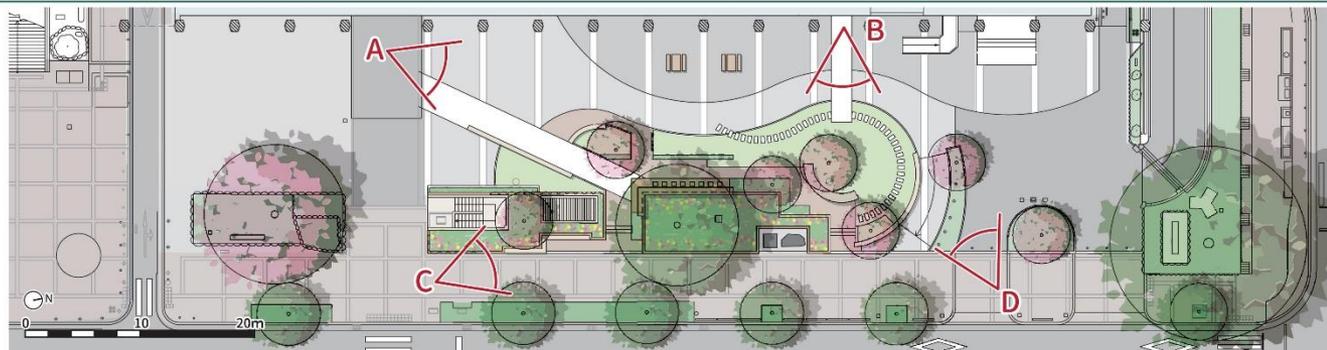
■立面イメージ



■ 計画平面図・断面図・事業費



■ アイレベルイメージ



A : 正面玄関より

立ち寄りやすいベンチに囲まれた舗装広場
クスノキに向かって視線が抜けて誘われる

B : 北側玄関より

芝生広場が広がり、奥に保護樹木のクスノキ
や第二庁舎が見える

C : 歩道より（南側）

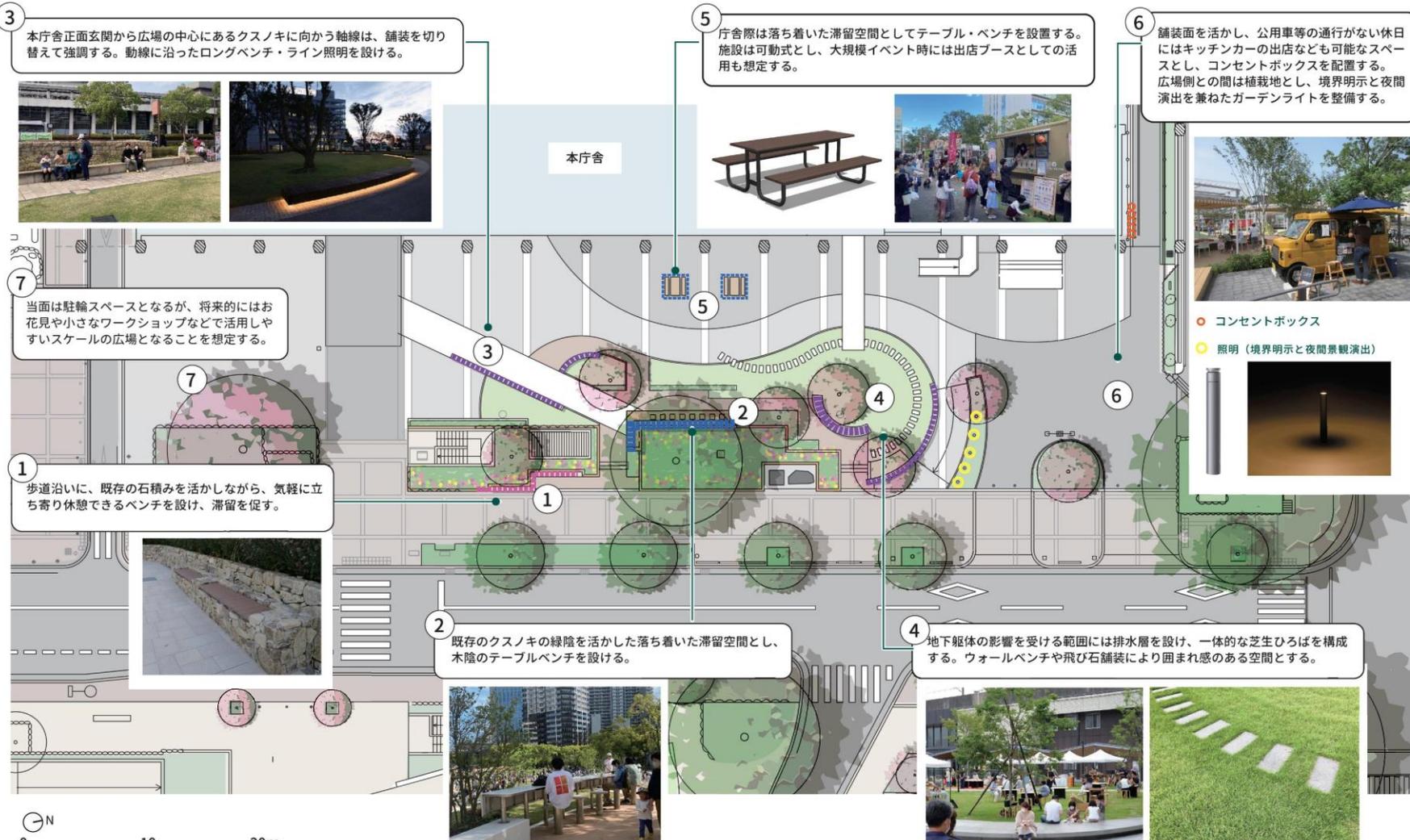
歩道から草花越しに広場の様子が見える
入りやすく街路と一体となった広場が広がる

D : 歩道より（北側）

クスノキやサクラの西宮市らしい緑の奥に
包まれた広場空間が見える



■空間・施設イメージ



舗装の想定

■ タイル舗装・ライトグレー

■ タイル舗装・ダークグレー

■ タイル舗装・ライトベージュ

■ 芝生舗装

■ アスファルト舗装

■ 現況との比較

